



矢印は前週の数に対して ↑増加 ↓減少 →横ばいを表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 11	28	百日咳	↓ 0	1
RSウイルス感染症	↑ 1	0	ヘルパンギーナ	↑ 270	204
咽頭結膜熱	↑ 22	20	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↑ 39	35
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	↓ 64	84	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 269	369	流行性角結膜炎 (はやり目)	↑ 15	13
水痘	↑ 63	49	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↑ 16	2	無菌性髄膜炎	↓ 2	4
伝染性紅斑 (りんご病)	↑ 3	1	マイコプラズマ肺炎	→ 4	4
突発性発しん	↓ 41	64	クラミジア肺炎	→ 0	0

ヘルパンギーナ

報告が多い  
感染症

感染性胃腸炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- ヘルパンギーナは、報告数 207件(前週報告数 204件)と増加した。地区別では、菊池、天草、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の89件を最多に主に9歳以下からの報告である。
- 感染性胃腸炎は、報告数 269件(前週報告数 369件)と減少した。地区別では、有明、山鹿、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の58件を最多に幅広い年齢層からの報告である。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、報告数 64件(前週報告数 84件)と減少した。地区別では、人吉、山鹿、熊本に多く報告がみられる。年齢別では、7歳の11件を最多に主に10～14歳以下から報告されている。

## ◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血 性レンサ球 菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性角 結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラズ マ肺炎	クラミジ ア肺炎
熊本市保健所	5	1	12	27	57	23	6	3	17		30	4		10		2	2	
山鹿保健所				5	25	2					6		*	*				
菊池保健所			5	5	41	8	3		12		49	5		2				
阿蘇保健所					1								*	*				
御船保健所					5						1		*	*				
八代保健所	3		1	2	27	12			1		31							
水俣保健所					3		1		2		12	1	*	*				
人吉保健所				11	17	1					34		*	*				
有明保健所			1	6	74	12	6		3		39	6		2			1	
宇城保健所			2	5	12	4			3		20	6						
天草保健所	3		1	3	7	1			3		48	17		1			1	
計	11	1	22	64	269	63	16	3	41	0	270	39	0	15	0	2	4	0

## ◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳 以上	
インフルエンザ	11		1		1			3	3		2	1										
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上							
RSウイルス感染症	1		1																			
咽頭結膜熱	22		2	5	4	2	4	2	1			1		1								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	64			3	8	8	7	9	7	11	4	3	3		1							
感染性胃腸炎	269	5	29	58	23	26	25	14	13	12	9	4	39	3	9							
水痘	63		1	13	11	12	10	8	3	2	1	1	1									
手足口病	16		3	6	2		2	1	1		1											
伝染性紅斑	3						1	1					1									
突発性発しん	41		19	19	2	1																
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	270		2	29	89	61	44	21	12	6	1	2	2		1							
流行性耳下腺炎	39			2	4	7	6	5	5	3		2	4		1							
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	15			2		2						1		2	1	3	2		1	1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	2					1					1											
マイコプラズマ肺炎	4			1	2					1												
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

- ☀ ヘルパンギーナ：菊池、天草、有明
- ☀ 水痘：熊本、八代、有明
- ☀ 流行性耳下腺炎：有明、宇城、天草

ヘルパンギーナ  
9週連続で増加



今週の報告数は270件で、第19週(5/7～5/13)以降9週連続で増加しています。県全体の患者報告数は警報レベルに近づいています。これまでほとんど報告がなかった山鹿、御船地域からも報告がありました。また、警報レベルにある地域も前週より3地域増え、7地域(菊池、八代、水俣、人吉、有明、宇城、天草)となり、流行の地域が広がってきています。ヘルパンギーナは夏に流行する小児の感染症で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。今週報告があった患者の中で、8割以上が3歳以下の乳幼児でした。

症状は、発熱と、のどにできる水疱性発疹が特徴で、急な発熱で発症します。2～4日ほど熱はさがり、その後発疹も消失し、ほとんどの場合経過は良好ですが、まれに髄膜炎や心筋炎を起こすことがあります。特に、ぐったりしている、強い頭痛・嘔吐を伴う発熱が2日以上続くなどが見られた場合は医療機関を受診して下さい。ウイルスは、患者の鼻水や唾液、便などに存在し、回復しても数週間、便中にウイルスが排泄されます。

一般的な予防は手洗いをしっかりとすること、排泄物を適切に処理することです。外出後、食事の前やトイレの後は、流水と石けんで十分に手を洗い、タオルの共用はしないようにしましょう。保育園等小児の施設では、特に注意して予防に努めてください。